



あじさいネット OFF LINE 通信



御船が丘梅林にて撮影 写真提供：岡循環器内科 岡 浩之 先生

目次

特集

- 在宅医療における、あじさいネット活用を考える座談会 2
 奥平外科医院 奥平定之 先生
 開生薬局 高田店 手嶋無限 先生
 長崎市医師会訪問看護事業所 船本太栄子 所長
 長崎市医師会訪問看護事業所 看護師の皆様

- 在宅医療であじさいネットを利用する方へ/
 第6回あじさいネット研究会に関するお知らせ 6

会員様の声

- 岡循環器内科 岡浩之 先生 7
 パサージュしらぬひ薬局 宮崎彰宣 先生 8

情報提供病院のご紹介

- 長崎県五島中央病院 地域医療連携室 9

現在の運用状況

- 患者登録数：42,766名
(あじさいネット説明同意書 取得済)
- 会員数：437名
- 情報閲覧施設数：242施設
(内、薬局数：45)
- 情報提供病院数：27施設
(平成27年3月23日現在)

賛助会員

- (株)ホギメディカル福岡営業所
- 日本電気(株)医療ソリューション事業部
- (株)LSIメディエンス
- 富士通(株)長崎支店
- (株)NTTデータ 公共システム事業本部
- オフィスメーション(株)

基本理念

地域に発生する診療情報を患者さまの同意のもと、複数の医療機関で共有することによって各施設における検査、診断、治療内容、説明内容を正確に理解し、診療に反映させることで安全で高品質な医療を提供し、地域医療の質の向上を目指すものです。

NPO法人長崎地域医療連携ネットワークシステム協議会

在宅医療における、あじさいネット活用を考える座談会

～あじさいネットを使った多職種チームの成果と課題～

特集

現在、長崎地区にて、在宅医療にあじさいネットを活用されている奥平定之先生と、その在宅チームである薬剤師、訪問看護師の方々にお集まりいただき、「在宅医療におけるあじさいネット活用を考える座談会」くあじさいネットを使った多職種チームの成果と課題くをテーマとした座談会を開催致しました。

病気になっても、患者さんの望む生活を支えるためには、多職種が連携し、継続した質の高い在宅医療、介護を提供していくことが重要です。お互いの専門的なスキルを活かしながら在宅医療の現場でご活躍されている皆様に、それぞれの立場からご意見を伺いました。

平成二十七年二月九日

長崎市医師会館にて

(敬称略)

奥平 本日はお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。この座談会の流れとしましては、まず、「あじさいネットの利用状況について」伺い、次に「在宅医療の在宅医療運用ができて在宅訪問にどう影響したか」、最後に、あ



奥平外科医院 院長
奥平定之先生

じさいネットの在宅運用を進展させるためにはどうすればよいのか」を話し合っていきたいと思います。まず、私からあじさいネットをどのように使っているのか紹介します。

◆あじさいネットは情報収集に欠かせないツール

奥平 患者さんがあじさいネットの情報提供病院にかかっていたら、同意を得て、薬の内容や検査結果を確認しています。レントゲンに関しても、同じような部位であれば当院で撮る必要がなく、患者さんの負担を減らせます。

在宅医療においては、退院前カンファランス(退院時共同指導)で病状や経過の説明がありますが、限られた時間で十分な内容を把握するのは困難です。こういった場合にあじさいネットを利用すれば病歴や検査所見、また、これまでどういった診療を受けられてきたのかもよく分かるので基幹病院の先生と御一緒に診ていく上で非常に役立っています。特に内科系の先生は詳しく退院サマリ

を書いて下さるので馴染みのない病気については大変勉強になります。

手嶋 調剤薬局の薬剤師の場合、診療情報を得る手段は通常、処方箋のみですが、あじさいネットを利用すると、医師、看護師の記録や各種検査の報告書が見れますし、検査値を正確に把握することができます。また、お薬手帳に記載されない外来化学療法点滴のメニューに変更がないか、副作用が起きていないかの確認や院内処方内容についても事前に分かるので役に立っています。

在宅医療では、退院時の服薬指導内容、薬剤師の記録、看護サマリを利用しています。郵送と違ってタイムラグなく活用でき、あじさいネットのメモ機能に書き込まれた在宅スタップ間のやりとりが見えるのは薬剤師にとってすごく大きいです。看護師は患者さんに密に関わるので、褥瘡や感染のケアといった我々が踏み込みにくい領域に関して、どのように対応されているのかメモを見ながら病状の変化を捉えています。患者さんは、このような情報が薬剤師に必要とは思っていませんが、あらゆる情報をふまえて患者さんと向き合いたいと思っています。

池上 退院前カンファランスが終わった後に、検査内容や病院での様子について情報を収集するのにあじさい



インターネットを使います。患者さんが言われることと病院で説明されていた内容が違う場合も時々ありますので、確かな情報をスタッフ間で共有するためにもしつかり見るようにしています。

浅野 在宅移行後に患者さんが基幹病院を受診された際の先生とのやりとりは、記録としてきちんとした内容が把握できるのですごく大きいです。訪問時に状況の変化があれば、あじさいネットのメモ機能で在宅主治医に報告し、情報共有しています。病状悪化時や最期の時期が近くなると報告の頻度が多くなり、やや大変ですね。

◆iPadの登場で

活用の幅が広がった

奥平 訪問看護ステーションにはあじさいネット用のデスクトップパソコンは一台しかありませんよね。iPadを使い始める前はどのようにしていたのですか。

船本 訪問先から戻って、事業所で使用していました。ですから、日曜祭日、夜間は利用できませんでした。浅野 こんな例がありました。金曜日に退院前カンファランスがあり、次の月曜日に退院予定の方がいらっしやったのですが、低血糖の心配があったので、あじさいネットで低血糖に関する情報が入らないかとずつと見ていました。すると、土日もち

はり低血糖を起こされていたので、在宅主治医に伝えて確認してもらいました。在宅に移行する前に分かったことで、対応がしやすくなった事例です。

奥平 iPadがあれば、いつでもどこでもあじさいネットを利用することが出来ます。在宅医療に限らず大変便利です。在宅医療の中であじさいネット利用を進めていく上でのアピールになります。今のところ、訪問看護ステーションでiPadを持っているのは三カ所だけです。もっと普及していくといいですね。

手嶋 私の薬局は在宅医療に特化していて外出していることが多く、デスクトップパソコンではあじさいネットを利用する時間がなかなかありません。iPadであれば外出先でも確認できますので活用の幅が広がっています。

◆多職種連携には

顔の見える関係が大切

奥平 連携していく中で、FAX、電話、メール等を利用していると思いますが、これらと比較してあじさいネットの良い点は何でしょうか。

浅野 先生からの指示内容や、ご家族が言われたこともあじさいネットに記録しています。伝言ゲームのように伝わっていくよりも一つの正確な記録があるのはいいと思います。

手嶋 処方された薬をちゃんと飲み

ているのか、関わるスタッフが訪問時に確認した後記録することで、あじさいネット上に形として残せます。薬は正しく服用し、吸収されてこそ効果が出るので、薬物療法の効果を確実に得るには多職種の協力が必要だと思います。

船本 病院の中であれば同じカルテに多職種が書き込め、そのまま情報共有ができますが、在宅の場合は事業所が別々ですから、そういった条件の中でも上手く連携を取っていかねればなりません。顔の見える関係、信頼関係が多職種連携では大切で、最初に顔を合わせておくとその後が上手くいくように思います。

川原 在宅患者さんの生活を過ごしやすくするためには、それぞれの専門分野で患者さんの状態を把握し、多職種が密に連携することが大切なのではないかと思っています。

浅野 掛ける言葉や思いを統一し、患者さんご家族を混乱させないようになりたいです。一つの事柄でも様々な職種の視点がありますが、全員の方向



開生薬局 高田店
薬剤師 手嶋無限先生

性を同じにしていきたいと思いません。

奥平 顔の見える関係がまずベースにあつて、関わる皆が情報を共有し、同じ気持ちで多職種連携することが在宅医療では必要ですよ。

◆チーム間で迅速に

情報共有ができる

船本 患者さん宅を訪問した時に、在宅で看護師に伝えたことが基幹病院の先生に伝わっていた、一人に伝えたことがチーム全体で共有されていて安心したと感謝されていたケースもあります。こういった面でも活用できていると思います。

手嶋 実際にこのメンバーで情報共有した内容ですが、私が在宅の患者さん宅に処方された薬を持って行って服用してもらったところ、しばらくして痒みが出てきたと私に電話があり、主治医に診てもらうために発赤している状態を写真に撮ってあじさいネットにアップしたことがありました。これによって医師の総合判断が即座にできましたし、薬剤師からの視点で症状をどう診たかということチームで共有できた例です。

奥平 多職種連携が上手くいきましたね。あじさいネットを開けば情報が一カ所に集まっていて経過が時系列で見れるので治療がしやすいです。携帯電話の写真機能でもできないことはないのですが、携帯電話の

ような個人のものではなく、皆が使用しているiPadで患者さんに説明できるのがいいですね。

浅野 私は手嶋先生のケースで翌日の朝に訪問しました。落ち着いた状態の写真撮り、患者さんも含めて皆がもう大丈夫だと共感していることに患者さんが安心されていると感じました。

手嶋 経過をずっと見ていくというのは、病院の中であれば当然できることなんですけど、これが地域医療の中で、多職種間で繋がりがなくなってきているということがICTを使う上で最大のメリットだと思いますし、広がっていかなくてはなりません。医療を受ける側からすると、病院でできることがなぜ在宅医療でできないんですかと言いたいです。他の事例ですが、独居の癌患者さんの薬の管理方法を変更する際に、変更前後の写真や自覚症状の変化をメモ機能で記録しました。病院勤務の先生や看護師は実際の在宅医療を知る機会がありません。在宅側から情報を発信して、言葉だけでなく、写真とその状況経過から想像してもらうことができると思います。病院の医師や看護師が紹介元としてあじさいネットの在宅運用に参加してもらうのは、在宅医療を学ぶ上で大事なことでないでしょうか。



長崎市医師会訪問看護事業所
船本太栄子所長

病院に入院している時、地域で診ている時、次の病院に行った時の全ての経過をICTで繋いで情報共有することがあじさいネットの運用当初からの計画です。バーチャルホスピタルを構築するとはそういったことかと思っています。

◆多職種の参入があじさいネットの在宅医療を発展させる

浅野 現在は、医師、看護師、薬剤師が主にあじさいネットを使用していますが、できるだけ早く患者さんの生活を支えるケアマネジャーが参入し、情報を共有できるようになれば更に良くなると思います。

また、あじさいネットの在宅運用利用のための「地域包括ケア同意書」では、在宅主治医が決まっていなくて利用できないので、あじさいネットを利用する在宅医の数を増やしていくことも必要だと思います。

手嶋 在宅主治医があじさいネットを使用していなければ他のメンバーがあじさいネット上で情報交換した

いと思ってもできません。

基幹病院側の先生があじさいネットの運用講習会を受けなければあじさいネットが利用できないことや、あじさいネットでどういったことができるかを存じではない先生もいらっしゃるようです。外来診療をされている先生が在宅側の情報を簡単に見れるためにもメモ機能が作られていると思いますので、病院での正式運用が早く始まることを期待しています。

奥平 近々、情報提供病院間での病連携が開始されますが、そのために病院医師対象の運用講習会が開催されます。これにより病院医師があじさいネットを利用できるようになります。同時に、あじさいネットの在宅運用のメモ機能も見ることができるようになりますので、在宅医療の実際を知ってもらうことになると思います。

浅野 誰があじさいネット上に記録すると、携帯電話に「メモ機能への書き込みがありました」という通知が届くのは便利です。しかし、電源OFFの状態からiPadで表示されるまでに少し時間がかかるので、移動中に見るのはなかなか難しいです。急いでいる時は事務所へ電話をかけて読んでもらっています。

船本 一人の患者さんに関わる訪問看護師の数は多いのですが、今は常

勤スタッフだけしかiPadを持っていません。持っていないスタッフが訪問した場合には電話などであじさいネットの記録内容等を伝えていきます。

奥平 どこでもそうでしょう。使用できる方に記録内容を教えてもらうしかないですね。事務所にいつでも一人は常勤スタッフがいますか。

船本 昼間は皆外出してしまっていてあじさいネットを開けられないことが多いです。常勤スタッフが直接患者さんに関わっていなくても登録だけはしておいて、使用できない担当者に情報を伝えられるようにしています。

浅野 主治医のメモ機能に書き込みがあれば、翌日のケアの対応などを検討するために時間外でも連絡を取り合います。重症の方が重なったときはやり取りが多くなり大変でした。

船本 病院勤務の場合は、次の人に申し送ったらそこで終わりなのですが、在宅の場合は引きずるので負担感があります。でも、メモ機能を通して、在宅医療者間で情報交換ができるので助かります。

奥平 通知機能があるのは便利ですが、夜間に書き込む場合には迷惑だから機能を外そうかと思う時もあります。急いで見てほしい時やそうでない時のような使い分けができれば

いいですね。また、iPadにはテレビ会議機能がついているので、複数人での検討が必要な時は活用できるかもしれませんね。

手嶋 病院連携が正式に始まったから、病院側の医師、看護師、薬剤師があじさいネットをどんどん使ってくれるようになると思います。退院後も患者さんの経過を知りたい方もいらつしやるでしょうし、在宅での状態を知る良い機会になると思います。我々も、入院中に診ていただいたスタッフ、認定や専門の資格を持つている看護師と意見交換、できればカンファレンス的なことができ、所見と処置についての妥当性を確認してもらえれば、我々だけでなく患者さんの安心も得られ、ひいては地域医療の質はもっと上がると思います。そういった意味であじさいネットを使った在宅機能は重要だと思います。

奥平 今後もあじさいネットの在宅機能を有効に使っていくためには、患者さんの個人情報情報漏えいに関心する必要があると思います。利用者の職種も増えていきますからこのまま発展させていくために十分気を付けなければいけない事です。

手嶋 今のシステムでは運用講習会を受けた人だけがIDとパスワードを持ち、利用できるルールです。これで安心して患者さんの情報を共有

できるわけですが、この安全性を維持しながら意見交換の場となればと思います。

奥平 本日は、通常なあじさいネットの使い方から在宅への応用、それに、今日の主題であるあじさいネットの在宅医療機能について色々なご意見を出していただきました。

このツールは、利用開始から約一年経過しました。今後、更に使い勝手の良い機能にしていくためには、まず、あじさいネット会員の中で、このあじさいネット在宅機能を利用する医師、薬剤師、訪問看護ステーションの数を増やすことが必要かと思えます。まだ在宅主治医が少ないため、チームが組めないケースもあります。それから、在宅医療、介護で重要な役割を持つケアマネジャーを参加させることが次のステップだと思えます。また、在宅医療の現状を知っていただく良いツールです。で、病院スタッフにもぜひ参加していただきたいと思います。

長時間、色々な意見を出していただき、誠に有難うございました。あじさいネットは在宅医療で非常に役に立つシステムであることを再認識し、また、今後の課題も話し合うことができたと思います。非常に有意義な意見交換会をすることができました。皆様有難うございました。



後列左から（長崎市医師会訪問看護事業所）池上 由起様、川原 望由季様、松井 由恵様
浅野 文乃様、西村 香様

前列左から 船本 太栄子所長（平成27年2月9日現在）、手嶋 無限先生、奥平 定之先生

◆◆在宅医療であじさいネットを利用する方へ◆◆

在宅医療であじさいネットを利用するには、「地域包括ケア同意書」に、チームとして参加する在宅主治医、訪問看護師、訪問薬剤師等、チーム全員の氏名を併記してこの同意書を取得する必要があります。

<利用の手順>

- ①「地域包括ケア同意書」は、在宅主治医が患者様に主旨を説明し、同意を得た上でご記入下さい。
- ②患者様に、氏名、生年月日、住所、電話番号を記入していただきます。
- ③在宅主治医が、在宅医療を一緒に行うメンバーの氏名、あじさいネット ID、施設名、職種をご記入下さい。
- ④この同意書を、あじさいネット事務局（長崎県医師会内）へ FAX 送信、登録が完了すれば利用を開始できます。（登録完了の FAX が届きます）

<通知メールについて>

チームのメンバーが Human Bridge「メモ機能」、ID-Link「ノート機能」に記録すると、あらかじめ設定しておいたメールアドレスに通知が届き、知らせてくれます。あじさいネット事務局まで通知してほしいメールアドレスをご連絡下さい。

なお、「地域包括ケア同意書」は、「あじさいネットのホームページ」<http://www.ajisai-net.org/>
⇒会員の皆さま⇒同意書及び申請書類
⇒「地域包括ケア同意書」をダウンロードしてお使い下さい。

第6回あじさいネット研究会

全国地域医療ICTネットワークシンポジウム in 長崎
～広域地域医療連携ネットワークの価値と課題について～

**2015年5月9日（土）長崎県医師会館にて
14時30分開催！**

- 晴れやかネット（岡山）、まめネット（島根）、ちょうかいネット（山形）、全国でも注目の広域地域医療ネットワークの代表の方がそれぞれのネットワークの特徴をご紹介します。
- ご来場できない方は、当日、あじさいネットをご利用の端末から研究会の視聴ができます。（※先着100名様、事前申し込みが必要です）

**研究会の参加申し込み、また、視聴ご希望の方は、
あじさいネットホームページをご覧ください。**

www.ajisai-net.org/

「基幹病院」と「かかりつけ医」との連携の在り方を変えたあじさいネット



PROFILE

平成6年 久留米大学医学部卒
平成19年 あじさいネット入会
◆岡循環器内科 院長

●●● 基幹病院入院中の情報が

●●● 退院後に役に立つ ●●●

基幹病院の勤務医だった頃は、紹介された患者さんの治療に専念しており、開業医がどれほど入院中の患者さんの情報を欲しているか考えたこともありませんでした。

あじさいネットについては医師会への入会時に知りましたが、開業して初めて、かかりつけ医は患者さんが入院治療を受けている期間も含めて状態を把握し、その推移を見守っていくことが退院後の外来診療に如何に重要になっていくかということが分かりました。あじさいネットとの出会いが基幹病院とかかりつけ医の連携の在り方を大きく変えるものとなりました。

●●● かかりつけ医の言葉で伝え、

●●● 共有することが大事 ●●●

あじさいネットを利用すれば、紹介した患者さんの治療経過をライブに近い状態で知ることが出来ます。当院にはご家族皆が通院されている場合も多いので、基幹病院での患者さんの入院経過をご家族にお知らせすることもあります。基幹病院の先生が

大村市東三城町

岡循環器内科 岡浩之先生

お か ひ ろ ゆ き

TEL : 0957-52-3000

E-mail: oka-haay@octp-net.ne.jp

説明されたことを、長く接してきたかかりつけ医が改めて説明することで患者さんの理解も深まるでしょうし、我々かかりつけ医自身が口にして共有することが大事だと思っています。特に、治療が難渋したり、末期癌などで今後のサポートに多くの問題を抱える場合には、退院前に今後の緩和ケアや在宅医療についてご家族と相談できるのも大きなメリットです。

現在、大村地区では、介護保険者に配布される「連携ノート」を利用しています。在宅医療における多職種連携の重要性を知ってもらい、情報共有を更に推進しながら地域全体で治療にあたりたいと思っています。今後はあじさいネットを利用した連携ノートのIT化を検討中ですが、できるだけ患者さんやご家族も含めて情報共有が可能なツールとして今後も運用できる工夫をしていく予定です。

●●● 多職種間でタイムリーな

●●● 意見交換ができるシステムに ●●●

今や病診連携のツールとしてあじさいネットは無くてはならないものですが、当初の目的でもあった診診連携への使用が広がっていくことを望んでいます。開業医は、基幹病院に患者さんを紹介する以上に地域の開業医への紹介が多いので、検査データや画像等の共有が可能になれば大変役立ちます。

また、当院は在宅医療に力を入れており、多職種協働で患者さんの望む生活、ケアをサポートするという同じ目的に向かって取り組んでいます。そもそも価値観の多様性が存在する中で違う専門職の目線があり、患者さ



材料が揃わないこともあり、レシピ通りではなく、いつも自分なりのアレンジを加えて料理されているそうです。大学時代は自分で作ったお弁当を持参していたとのこと。今はお子さんによく作ってあげているそうです。

ん、ご家族を含めて全ての関係者が納得し、同じ方向に進んでいくのは容易ではありません。時には軋轢を生じながらも可能な限り対話を続けていき、その溝を埋めていく作業が重要です。刻一刻と状態が変化する患者さんの方針について頻回に話し合いの場を開くのは困難ですが、あじさいネットを利用して、IT上で意見交換がタイムラグなく行えるようなシステムになることを期待しています。

●●● 信頼される人でありたい ●●●

「急な用事は忙しい人に頼みなさい」というのが好きな言葉です。常に大事な用事を任されるような、人から信頼される人でありたいと思っています。自分自身心掛けていますし、子供にもよく言っています。

●●● 料理は作る過程が面白い ●●●

ずっと作っていてもいいくらい料理が好きです。テレビや雑誌で見気になったものは和食、洋食問わずなんでも作ります。食べることよりも作る過程に楽しさを感じます。思い描いた通りにできた時、達成感を味わえるのがいいですね。

事前に患者様の情報を得て、在宅訪問時には説明も会話もスムーズに



PROFILE

平成 13 年 第一薬科大学薬学部卒
平成 25 年 あじさいネット入会
◆ パッセージしらぬひ薬局 薬剤師

●● 知りたかった入院中の患者情報が得られる ●●
当薬局は、諫早総合病院の正面にあるため、お越しになるほとんどの方が諫早総合病院の患者さんです。診療所の先生よりあじさいネットへ参加のお誘いを受けていましたし、以前より興味を持っていましたこともありましたが、入会を決めたのは、諫早総合病院が情報提供病院になられたことが大きかったです。
基幹病院に入院されている間に処方されたお薬、血液検査のデータなど、あじさいネットを利用することで、これまで薬剤師には入ってこなかった情報を得られるようになりました。また、退院される時にお薬が変わることはよくあるのですが、それがどうしてそうなったのかという理由まで知ることができて大変便利です。患者さんに同意書の説明をする際にはそういった点をお話ししています。患者さんもあじさいネットの利点を納得した上で快く同意書にサインしてくださいませ。

諫早市永昌東町

みやざき あきのぶ

パッセージしらぬひ薬局 宮崎 彰宣 先生

TEL : 0957-21-0311 E-mail : passage-shiranuhi@tempo.ocn.ne.jp

●● 在宅訪問時にあじさいネットを有効活用 ●●
あじさいネットは在宅医療に取り組む上でも大いに役立っています。患者さん宅を訪問した際にご本人から話しを聞いたり、血液検査のデータを見せていただくことよってある程度のことは分かります。しかし、それができない場合もありますので、患者さんが診察を済まされた後に、あじさいネットで情報を得てから伺っています。事前に薬の変更点やデータを確認し、患者さんの状態を把握していますので、説明がしやすくなり、会話もスムーズにできます。これには特に大きなメリットを感じています。これから更に在宅訪問が増えていきますので、あじさいネットを有効活用していきたいと考えています。
認知症の方も少なくはないので、患者さんご本人だけでなく、ご家族ともしっかりと話しさせていただくようにしています。その時は私がお伝えした内容を分かっているらっしゃるようですが、後から電話で問い合わせられることがよくあります。それは、外来で来られる患者さんも同じです。再度説明をしています。ご家族に言われると不機嫌になられたり、説明しても納得されないということもあるようです。在宅患者さんを訪問した場合にはカレンダーに大きくメモを書き残していくこともあります。今後、こういった方が多くなるのでしようが、自分でできることを考え、患者さんをサポートしていきたいと思っています。

●● 診療所からの情報提供に期待 ●●

基幹病院から近隣の診療所へ紹介で移動された場合、患者さんの情報がそこで途切れてしまい、分からなくなります。あじさいネットに入会する基幹病院は増えていきますが、今後、診療所からの情報提供が広がり、継続して患者さんの情報が閲覧できるようになることを期待しています。

●● 子供と遊ぶのが一番! ●●

体を動かすのが好きで、大学生の頃までは剣道をずっと続けていました。休日は、たまにゴルフや釣りに行くこともあります。二歳になる子供と過ごすことがほとんどです。子供が生まれてからは、一緒に遊ぶのが他の何よりも楽しいです。すぐに大きくなるので、今だけかなと思っています。

●● 何度失敗してもくじけない ●●

座右の銘は、「七転び八起き」です。失敗して当たり前。くじけず、何事も一生懸命やっついこうと思っています。



薬局名が大きく印字された車で在宅訪問をされています。諫早市内を走り回っているそうで、お会いしたのは2月でしたが、健康的に日焼けされていました。ほんのり小麦色の肌が印象に残っています。

情報提供病院のご紹介

長崎県五島中央病院 地域医療連携室

長崎県五島中央病院は、平成25年8月に診療情報提供をスタートしました。
基本理念として、五島の地域医療に貢献し、患者様に信頼される病院を目指します。

Message / 村瀬邦彦 院長

●●離島での円滑な
地域医療連携を目指して●●

当院は離島である五島地区の中核総合病院として、近隣の病院や開業医の方々と連携しながら地域医療に取り組んでいます。月一度開催しているオープンカンファレンスでは、医療、介護、福祉従事者が集まって患者様の症例検討を行い、それぞれの病院からは問題点を発表していただいています。病院の先生や介護施設関係者がどういったことで悩まれているのかを知るためにも、当院に紹介されていない患者様の問題点も含めて協議します。医師、看護師、保健師など、様々な職種の方がご参加くださっています。

胸部疾患懇話会では、医師を主体としたアカデミックな症例検討を行ったり、放射線医による簡単なミニレクチャー、レントゲンの読み方指導等、先生方のお役に立てるような勉強会を定期的に開催しています。

他には、地域医療連携室を通して病病連携や病診連携にも取り組んでいます。様々な市との連携を取るために、住民検診や福祉の会議等にも協力し、小児科等の健診に関しては



PROFILE

昭和54年 長崎大学医学部卒
平成26年10月より
長崎県五島中央病院 院長

積極的に市に医師を派遣しています。
島内、島外の医療機関との連携を大切にし、交流を深めながら、地域と密着した包括的な医療サービス作りを目指しています。

●●地域医療ネットワークを利用した
情報の共有化が重要となる●●

脳神経外科、心臓血管外科など、ハイリスクの症例の場合、専門医がいる本土の病院へ患者様をヘリコプターにて搬送します。年間七〇から一〇〇回程度です。特に重宝しているのが産婦人科や小児科です。早めの搬送を心掛け、未熟児やリスクの大きい周産期の妊婦様の対応をしていただいています。

当院では、あじさいネットに導入された遠隔画像診断システムを利用しており、デジタル化した画像の送信、迅速な診断や治療方針の決定などを活用しています。地域医療ネットワークを利用した情報の共有化は今後ますます重要になっていくことでしょう。医療の質を向上させるためにも推進していきたいと思っています。

診療所の先生方が、情報提供病院である当院に紹介した患者様のカルテをあじさいネットに閲覧し、参考にされています。よく利用されている先生と話しましたら、紹介状の返事だけではデータが不十分な時に見せていただきたいとおっしゃっていました。地域住民の方々のために、できるだけ継続して診ていきたいとのことです。あじさいネットの利便性を紹介し、更に多くの診療所の先生方に活用していただきたいと思っています。



地域医療連携室の皆様

後列左から 野口様(看護師 副師長)、山口様(事務) / 前列左から 池田様(社会福祉士)、宮川様(看護師)

◆地域医療連携室のスタッフより、
診療所の先生方へ

- ・同じ患者様の登録依頼を再度されることなどがたまにありますので、ご確認の上依頼をしていただきますようお願い致します。
- ・数名分の同意書をまとめて送られる際には、緊急性があるのか、多少時間がかかっても大丈夫なのかを記入していただければ助かります。
- ・画像が多いと取り込みに時間がかかり、十五分以内に登録できないことがあります。お急ぎの場合にはご迷惑をおかけします。そのような時には連絡をしていますが、ご理解の程よろしくお願い致します。



HOGY[®]

一步先の手術室環境づくりをお手伝いします。

ホギメディカルでは、不織布・キット製品など感染対策製品および理想的な病院経営を総合的にサポートする手術管理システムをご提供しております。

国内最大級の生産・滅菌システムと全国25箇所の営業所ネットワークによって安定的な製品提供ならびにお客様サポートで「安心」をお届けしております。

株式会社 ホギメディカル

本社：東京都港区赤坂2-7-7 TEL:03-6229-1300 FAX:03-6229-1344



Empowered by Innovation **NEC**

見つめているのは、 人びとの暮らしです。

人びとが安全・安心で豊かに暮らせる社会のために、
私たちは先進的なICTで貢献します。

お問い合わせは、NEC(医療ソリューション事業部)へ
〒110-8501 東京都豊洲3丁目7-1 (NECビル2F) TEL:03-6786-6756

<http://jpn.nec.com/>

THE KAITEKI COMPANY 三菱ケミカルホールディングスグループ

2014年4月1日、弊社(旧三菱化学メディエンス株式会社)は社名を変更しました。



株式会社 LSI メディエンス

ヘルスケアの未来を変えていく。
健康で安心な社会を創造していくというビジョンのもと、より多くの人々にKAITEKIを届けてまいります。

LSIメディエンスは、三菱ケミカルホールディングスグループの新たな事業会社として2014年4月1日に発足した株式会社生命科学インスティテュート(Life Science Institute, Inc.: LSI)のグループ企業となりました。

株式会社 LSI メディエンス

〒101-8517
東京都千代田区外神田一丁目13番4号
THE KAITEKIビル

- 臨床検査(生化学的検査・免疫学的検査・分子生物学検査・遺伝子関連検査・創薬学的検査・その他検査)
- 健康診断関連サービス ● 医療関連サービス ● 検査材料関連製品(体外診断用医薬品・体外診断用検査薬・試薬等の開発・製造・販売及び輸出入)
- 医薬品開発関連サービス(医薬品開発支援・品質管理) ● ICT領域による高度の検査情報 ● 遺伝子・ゲノム情報
- 医薬品・医薬品・化学品・医薬品開発・化粧品等における安全性評価・毒害リスク評価サービス
- 食の安全サポート ● トレーニング検査



「つなぐ医療」から、
「支える医療」へ。



shaping tomorrow with you
社会とお客様の繋がりが未来のため

富士通は、
医療の未来をカタチにしていきます。

地域医療ネットワークの整備が進むなか、富士通は、地域と住民を「支える医療」にいち早く着手。災害時の事業継続、ビッグデータによる個別化医療、創薬の加速化をサポートします。

HumanBridge EHRソリューション

製品・サービスについてのお問い合わせは
富士通コンタクトライン(総合窓口) 0120-933-200
(受付時間 9:00~17:30 土・日・祝日・年末年始を除く)

<http://jp.fujitsu.com/solutions/medical/products/humanbridge/>




安心と安全を届けます

NTT DATA
Global IT Innovator



長崎県下の
お客様から
情報技術分野で
必要とされる会社へ。

 **オフィスメーション株式会社**

長崎市金屋町2-6 電腦BLD.
095-822-7201
<http://www.nagasaki-om.co.jp>

あじさいネット入会方法のご案内

1. 入会

入会申込書を事務局宛に送っていただきます。
所属医師会が入会している場合は個人の入会金は無料です。
所属医師会が入会していない場合は、入会金が 50,000 円 必要となります。尚、初期設定費用として別途 30,000 円 を承ります。

2. 利用料金

月々 4,000 円 (レセプトオンライン請求も希望の場合は 5,000 円) と年 3,000 円 のウイルス対策ソフトライセンス料が必要です。ウイルス対策ソフトライセンス料とあわせて年間一括払いをお願い致します。
*TV 会議システム及び、遠隔画像診断システムの回線のみのご利用の場合も同額の料金となります。尚、高品質遠隔画像診断システムでは別途診断料金がかかります。

3. 機器の設置

機器設置用ヒアリングシートに必要事項をご記入の上、事務局宛にファックスまたは郵送願います。
シートに基づいて専門スタッフ (NTT フィールドテクノ九州) が設置、動作確認に参ります。

4. 運用講習会

利用法の運用講習会です。講習後『講習会受講修了証』とアクセス専用 ID と仮パスワードをお渡し致します。

5. 同意書と登録

患者さまにあじさいネットに関する説明を行い、あじさいネットに参加するための同意書をご記入いただきます。取得した同意書は診療情報閲覧を希望する情報提供病院の医療連携室宛にファックスで送付して下さい。約 10 分後に連携室より手続き終了の FAX が届きます。この段階で利用可能です。

6. あじさいネットポータルサイトへのログイン

アクセス専用 ID・パスワードにてあじさいネットのポータルサイトにログインし、同意を得た患者さまの診療情報を閲覧することができます。

*手続き上、必要な様式ならびに同意書につきましては HP からダウンロードできます。



◆4コマ漫画作者：詫摩和彦先生
長崎市医師会所属
長崎在宅 Dr. ネット理事

入会等に関するお問い合わせ先

あじさいネット事務局 (長崎県医師会事務局内) 担当：三浦・苑田
電話 095-844-1111 FAX 095-844-1110

編集後記

あじさいネットの付加機能である TV 会議は、4 月で運用開始後 2 年が経過したことになります。この間、長崎県医師会館での定期・非定期の全郡市医師会を対象とした会議に加え、長崎県医師会が主催する生涯教育や各種研修、講演等を郡市医師会をサテライト会場として配信しています。講演や研修会の開催地やサテライト会場としての参加は郡市医師会に加え、各情報提供病院とあじさいネットを利用している診療所や薬局で可能です。ちなみに iPad でも可能なので、出張先からも利用できます。現時点での運用は、サテライト会場に集まってもらう利用法だけになっていますが、今後ご自分の診療所や薬局あじさいネット端末から参加できることとなります。2015 年 3 月 12 日長崎地域部会主催で開催した「あじさいネット新機能説明会」では実験的に自院から参加できるよう設定しました。(この内容は当日の朝あじさいネット ML に [ajisai-ml:01201] として紹介しております) 今後もこのような運用テストを何度か繰り返し、5/9 (土) の第 6 回あじさいネット研究会とそれ以降、正式に運用できるよう準備いたしますのでご期待ください。

*ご感想は、あじさいネット事務局「aj-na@nagasaki.med.or.jp」までお願いいたします。

あじさいネット OFF LINE 通信 編集長 松本 武浩

広報誌に関わるご意見・ご要望は、長崎県医師会 長崎県あじさいネット拡充プロジェクト室までお寄せください。
電話 095-894-9655 FAX 095-894-9651 ajisai-project@nagasaki.med.or.jp